

## 第2章 政策チェックアップ（業績測定）

### 1 平成13年度における取組の概要

政策評価制度導入の初年度である平成13年度は、業績指標等の設定を行った。まず、平成13年5月に、政策目標と業績指標の素案を作成し、第三者委員会である国土交通省政策評価会の意見を聴取した上で、パブリックコメントを実施した（意見聴取期間：5月18日～6月末日）。パブリックコメントでは、121名の国民から約500件の意見等が寄せられた（表2）。

同年8月には、パブリックコメント結果等を踏まえて追加・削除した計112の業績指標について、それぞれ5年以内の目標値（業績目標）を設定し、27の政策目標とともに省議において正式に決定した。（平成14年3月の基本計画策定時に業績指標を1つ追加した。）

（表2）政策目標、業績指標に関するパブリックコメント結果

実施期間：平成13年5月18日～6月末 意見総数：121名、約500件 主なご意見とそれに対する考え方：以下のとおり。	
1. 全体について	
戴いたご意見	国土交通省の考え方
政策目標と業績指標の関係がわかりにくい。	業績指標の解説をわかりやすく記述することとします。また、アウトカムベースで記述してある政策目標を実現する上で、国土交通省として取り組んでいる施策を「関連施策」として明示していません。
業績目標を設定する上での正統性を確保する必要があるのではないか。	業績目標（目標値）については、その設定の考え方をわかりやすく記述することとします。
それぞれの政策目標や業績指標について、目標達成に要するコストを明示するべきではないか。	今後の課題であると認識しています。
2. 政策目標について	
戴いたご意見	国土交通省の考え方
政策目標間に優先順位をつけることが必要ではないか。	まず業績測定等を一定期間実施し、その結果を踏まえて、省全体としての新たな政策展開の戦略を確立する中で検討する課題であると認識していません。
国土交通省以外の政策目標であると思われるものが含まれているのではないか。	政策目標は、国土交通省のミッション（使命）を踏まえ、国民の視点に立った望ましいアウトカムに着目して整理したものであり、今後の国土交通行政を推進していく上で、目標とするべきものと認識しています。
地域別の政策目標も設定するべきではないか。	今後の課題であると認識しています。

### 3. 業績指標について

戴いたご意見	国土交通省の考え方
「最低居住水準未達の割合」については、一人暮らし高齢者の問題等、関係する政策課題が複雑であり、業績指標としては必ずしも適当ではないのではないか。	指標から削除します。
「電線類地中化」を指標に加えたかどうか。	指標に追加します。
「都市部における走行速度」に関する指標を追加したらどうか。	「朝夕の三大都市圏人口集中地区の走行速度」を追加します。
「空港までの鉄道アクセス時間」に関する指標を追加したらどうか。	「都心部との間の鉄道アクセス所要時間分台以 30 内の三大都市圏国際空港数」を追加します。
「鉄道事故」に関連する指標を追加したらどうか。	「地方中小鉄道における ATS 設置率」を追加します。
「事業用自動車の交通事故（事業車両責任分）」に関する指標を追加したらどうか。	「事業用自動車の運行管理に起因する事故割合」を追加します。
「海上における犯罪」の発生等に関する指標を追加したらどうか。	「薬物・銃器密輸事犯の摘発件数」を追加します。
（ご提案があったが、今回追加することは困難であると思われる指標） ○駅、バス停から 10 分圏住宅地の割合 ○地域コミュニティ活動を評価する指標 ○公共交通機関の待ち時間、乗り換え回数等に関する指標 ○内部管理事務に関する指標	

### 4. その他（政策目標、業績指標以外に関する御意見）

<p>顧客満足度等に関する指標を開発する努力を続けてほしい。</p> <p>○今後とも、企画立案の段階から、国民に開かれ、わかりやすい政策、施策を展開してほしい。</p> <p>○事前評価（政策アセスメント）と連携させることで相当有効なシステムになりそうである。</p> <p>○短期的または局所的な B/C に終始するあまり、中長期的な国土マネジメントのビジョンを失わないようにしてほしい。</p> <p>○評価結果を、国土交通行政の見直しだけでなく、国と地方の役割分担、官と民との役割分担の見直しにも活用してほしい。</p> <p>○職員の意識改革が大切である。</p>
---

## 2 業績指標等

27 の政策目標と 113 の業績指標は、第 1 部第 4 章に示したとおりである。

業績指標の選定にあたっては、全体として、国土交通省の主要な政策分野をカバーし、一覧性を持たせるようにするとともに、できるだけアウトカムに着目し、また、部局横断的なものとなるように留意した。また、それぞれの業績指標ごとの目標値（業績目標）については、国民のニーズ等を踏まえつつ、恣意的なものとならぬよう注意して設定した。なお、それぞれの指標ごとの目標設定の考え方は、指標ごとの説明を参照されたい。

なお、業績測定の導入にあたっては、適切な業績指標を選定することももちろん大切であるが、業績測定のそもそもの意義についての省内の理解を高める必要があった。そのため、「アウトカム目標発見フローチャート」や「SMART原則」(第 部第2章参照)などを使って、望ましい政策目標や業績指標のあり方について省内で十分に議論し、職員の理解を徐々に深めながら指標の設定等を進めていった。